

「市町村懇談会行動・参加者感想」 家族会要望と懇談の申し入れ活動 「高次脳機能障がい」充分に 理解を得られていない実態

家族会では、県下全ての市町村に対して、8月から9月にかけて要望案件を整理し懇談を実施してきました。(要望事項は季刊誌26号に掲載)各市町村懇談行動に参加した会員さんからの声を掲載させていただきます。(参加会員さんからの感想文を掲載)

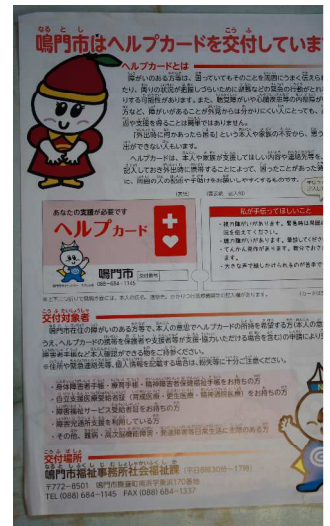
(活動の積み重ねが大切)

今回すだち会で県内各市町村を回り、懇談した内容とは、主に1、障がい者手帳に関すること、2、障がい者への支援について、3、障がい者への差別の解消、4、高次脳機能障がいへの理解を深めるための事業の策定の要望等でした。

感じた事は、「高次脳機能障がい」という「障がい」を初めて耳にしたという市町村が何か所かあったという事もあり、「これからが始まりか?」という思いでした。

最初に訪問した、松茂町の要望の際には、神奈川で起きたある事件の事が話題に上がりました。その時に、「例えば、こういった事件について、会員の皆さまはどのように考えておられるだろうか?」という事を思いました。「その対象者が、もし子供さんやお孫さんだった場合は、その将来の事をどのように考えておられるのか?」という事も考えると、私自身も胸が詰まる思いでした。

以前HPでも書かせていただいたと思いますが、昔の戦国武将に毛利元就が、「一本の矢は折れやすい。一つに束ねれば折れにくい。」と、兄弟や仲間との協力が大切であるという言葉、俗にいう「三本の矢の教え(三矢之戒)」を残しましたが、私達も、こういった物事に向かうにあたり、一人(少人数)で活動していくことより、一人でも多くの者が携わる方が効果もあり、良いのではと思ったりもしています。



そして、「親亡き後」と、私はよく口にしていますが、確かに今回各市町村は話を聴いてくれる時間を取っては戴きました。果たしてそれで終わりだとは思ってはいません。こういった積み重ねが大切ではないでしょうか? 会員の皆さんそれぞれが一つになって、誰のためでもなく自分の為だと思い、今後はいろいろな活動に取り組むべきだと感じました。各市町村等を訪問する場合、その町の情報をあらかじめ少しでも勉強し知っておくと、話のタネにもなると思いました。以上、市町村を巡り、その際に感じた事を述べさせていただきます。(K. H)

(温度差に驚く)

今回、県下全ての市町村長との懇談会を行ってきましたが、高次脳機能障がいと云う障がいの認識において、認識、対応に市町村によって大きな差があることが解りました。4月に障がい者差別解消法が施行されたとは云え、障がい者に対する差別、偏見が深いこともわかりました。

高次脳機能障がい者を職員として雇用している町、高次脳機能障がいのリハビリ治療が可能と広報で知らせている町があるかとおもえば「高次脳機能障がい」と云う障がい名も承知していないと云う実態も見られました。こうした実態からして、私達障がい者を抱える家族の取り組みの弱さも感じることが出来たことは大きな成果だと思っています。今回の取り組みを契機に、当事者、家族の要望が一つでも実現できるよう頑張っていきたいと考えている者です。(K. I)